



THE ROTARY CLUB OF TOKYO NEW-SOUTH



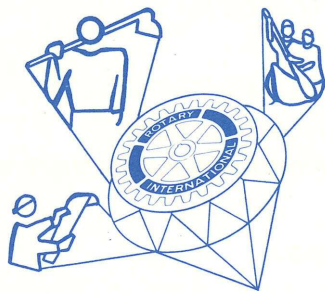
Weekly Report 東京新南ロータリークラブ週報

第3回 クラブ協議会特集号

No. 154 1989年11月24日

「財政と増強」

保 科 正



国際ロータリー会長 ヒューM・アーチャー

1989-90年度国際ロータリーのテーマ

ENJOY ROTARY!

ロータリーを
楽しもう!

◎第3回クラブ協議会（10月20日）から

クラブ財政は、支出が収入を大きく上まわる状態が続いている。それをどう改善したらよいか。

「思い切って支出を削る。誕生祝はカーネーション1本でよい」

「他クラブでの飲み食いは個人負担にすべきだ。委員会費用や渉外費はもっと減らせる」

「例会費を削る。月1回はサンドウィッチとコーヒーだけでよい」

「ピアノ演奏を止めて、テープにしたらどうか」

「全日空ホテルでテープは、アンバランスだ」

「新南 RC が新クラブを作る位の心意気で、会員増強に取り組むべきだ。全会員が1人ずつ候補者を推薦すれば、25名は増やせる」

「最大限努力しても、1年に6名位しか増員できないだろう。会員が増えればというのはごまかしだ。増えることを前提に予算を組むのはおかしい。経費の削減も安易に行うべきではない。ロータリーはゆとりの時間である。ゆとりを取り上げないで欲しい。削減、削減では過ぎすぎる。毎回有益な卓話、名曲の数々を聞くことができるのだから、今の会費は安い。会費を値上げして改善するしかない。

「このクラブはすばらしいクラブだ。会員増強ばかりいっていると、派閥ができたりして、つまらないクラブになってしまう。暖かい雰囲気の中で1時間が過ぎるという今のクラブを守るために、すばらしい会員を増やして欲しい」

馬場幹事から「本年度になってから、会員の推薦は1名もない。なぜ推薦がないのか考えさせられる」という厳しい指摘があった。

保森会員は、積極的な値上げ提案をした。「年会費を速やかに41万円まで上げるべきである」（まとめ・大日方）

性急な会員増強はするべきではない。

我がクラブの立地的環境、親クラブ（東京南ロータリークラブ）から分離独立した背景などを考慮すると、当クラブは約100名位の会員数で、従来の型にとらわれない充実した諸活動を行ない、会員相互の充分な親睦が計れるような、新しいロータリークラブを目指すべきだと考える。

その為には、何よりも健全なクラブ財政を確立するべきであり、いわゆる赤字財政状態は、論外と考える。

会員増強については、ある程度の時間的余裕をみながら一人一人の協力に委ねるとして、やはり充分な財政状況をつくるまで年会費の値上げはやむを得ないのではないかと。

クラブ基金1000万円位の確保、年会費による正常な予算の消化が出来るよう早急に年会費の改定を行ない、目標達成後は、その財政状態に合わせた年会費の値下げがあっても良いのではないかと考える。

「財政と増強」

宮 本 正 祥

新南設立時に試算された田島氏の運営グラフによりますと、当所は年会費30万、毎年の増強12名、そして年会費の収入と経常運営費がクロスする人数が118名となっています。従って新南を8年間で118名として、初めて年会費のみで賄えるよう計画されたように思えます。現在、田島氏のグラフ通りでない部分が5項目あります。

- (1) 増強が遅れている。計画では現在61名。現状は52名。
- (2) 増員が少なく(?)年会費を32万と修正した。
- (3) 経常運営費が田島氏の試算をオーバーしている。
- (4) 計画当時に組みこまれなかったガバナー支援の300万の出費。
- (5) 青少年受入の150万の出費（来年度）

本来増強と財政は別であります、現在の新南では双方が絡むのは止むを得ません。その解決に当りましては前記5項目全てを含む対応が必要です。私個人としましては少規模でアットホームなクラブに魅力を感じております。運営費の節約と共に、約70名程度までの増員と、それに見合う年会費(但し、高齢会員に対する配慮が必要)増額を行い、健全経営が可能なクラブになれば理想的だと思います。

「会員増強と財政について」

赤 松 仁 明

10月20日のクラブ協議会で充分ご説明いただき、問題点並びに解決策の困難なことについては理解できたつもりです。いろいろな方策がご提案され、非常に興味ある案もありましたが、やはりこの際は真正面から取組むことが、ロータリークラブらしい方向だと思います。年会費を当面、40万円（例年会費の2倍を目途）に引上げて、更に不足する分は必ず会員増強で充足することだと思います。誕生日祝い品については、お互いに年齢を考えますともう余り嬉しくもない世代ですから・・・「誰かにしてさしあげるのは楽しいが、される方は何うもどうも」です。

「クラブの財政について」

永 井 克 彦

基本的には、経常収支は基金会計を流用しないで運営されるべきであり、協議会での種々の議論がありましたが、結論的には通常会費の増額は仕方の無い事と思います。現在32万円を例えば38万円に増額し、残りについては節減の実施でカバー出来るのではないかと思います。節減については細かくなりますが、例えば誕生日祝のカット雑誌類購読の会員負担、委員会経費の前年並（2725千円）迄の圧縮、等。又ニコニコ会計からの流用についても目的さえ明確にすれば一般会計に一部流用してもいいのでは…。いずれにしても節減については全体会議では集約しにくいと思いますので特別委員会を設置し全員の意見を土台にしての集約を図るのが得策だと思います。

275地区だけでも会員60名以下のクラブは相当数あります。それぞれ財政面の悩みをかかえているとは思いますが、財政面からの無理な会員増強は避けるべき。

「あくまで私見です」

沖 宏 之

1. 会員は、矢張り80名位に増強して行きたいと思います。
2. 会費の値上げは、簡単な考えであり、また殆んどの会員は、賛成をしてくれるでしょうが、矢張り安易に考えない方がよいのではないのでしょうか。
3. 会員の増強については、慎重に扱い、また紹介者にも充分その会員の面倒を見て貰える人が望ましく、そして責任もある程度持っていただくのがよいのではないのでしょうか。
4. 会員の増強については、親クラブである南クラブにもお願いして、良い会員で、出来れば矢張り年齢的にも、なるべく活性化できる人が望ましいと思います。

「クラブの財政について」

山 下 忠 治

(1)収入増加

- ①会員増加（原則として年会費の値上げはすべきでない）
- ②会計年度ごとの赤字（欠損金）を補填するため臨時会費を徴収する。なお各会員の負担額は在籍月数で月割計算をする。
- ③一般会計からの支出に関連した収入（例誕生日祝）をニコニコに入れるのは矛盾。一般会計の収入用ニコニコボックスを別に考えてはどうですか。

(2)経費節減

- ①誕生日祝い品はカーネーション1本でよい。
- ②ロータリーソングのピアノはテーブにする。
- ③理事会の会場はホテルで開催せず事務局の部屋を使用する。
- ④事務局のお茶は番茶にする。

「クラブの財政について」

岩 瀬 秀 郎

収支悪化、即会費値上げでは経営的に好ましくない。何等かの節約をしたうえで値上げすべきではないか。

1. 節約可能なもの

イ. 田島会員提案の月1回3千円例会

千円×51名×70%×12回 ÷43万円

ロ. 誕生日祝の簡素化（5千円を5百円に）

4.5千円×51名 ÷23万円

ハ. 100%出席祝品中止 5万円

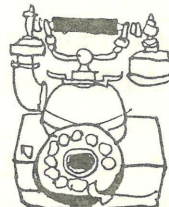
ニ. ピアノ演奏中止 45万円

ホ. ロータリーの友を個人講読とする 12万円

以上で約130万円節減。

2. このうえで会費値上げとするが、当面40万円は他クラブとの比較で高過ぎるなら5万円値上げで37万円とする。
3. 基金会計から繰入れは半分の220万円とする。
4. 以上で大体採算はとれると思われるので、増強会員が7名あれば、基金会計からの繰入れ分はカバー出来るし、会員増強をあせらずに済む。
5. 当分の間、節約我慢し会員増強により余裕が生じればその時点で節約分を強化する。

（追記）ニコニコ会計の流用は極力避けるべき。



「クラブの財政について」

石川 久 夫

始めに結論を申し上げる。

徹底した革命的経費の節減を計り、それでも足りない場合、始めて全員で真剣に討議し、会費値上げを含めた対策を立てるべきである。

すなわちロータリーの真の精神、大原則ルールを再確認し、場合によっては、一部それを形式的に乗り越えるぐらいの勇気を持って対応すべきであろう。

誕生祝品が無ければ、親睦は計れないのか。

ピアノの演奏が無ければ、例会の目的は達せられないのか。

卓話者は出来るだけ会員にお願いしたらどうか＝私には会員のお話の方が、親密感も印象も大きかったようだ＝。

週報も毎週でなければいけないのか、月報にしたら会の運営に多大な支障を及ぼすのだろうか。

ロータリーの例会は、キラビヤかな会場で、ピアノの生演奏を聞いて贅沢な食事をしなければ、親睦も奉仕も語れないのだろうか。

紙面の都合で言葉が足りなかったことをお許し下さい。しかし今回この様に意見を述べる企画を立てられたことに感謝し、今後もこの様な企画の続けられることを、希望します。

「会 計」

平 井 逸 夫

今回の第3回クラブ協議会は、会員の皆さん大多数が参加されたなかで開催され、しかもクラブ運営上最も重要ではないかと思われる財政に関する問題が討議されましたことは、誠に有意義であったのではないかと思います。

討議のなかで明らかになりましたことは、当クラブのように会員総数が少ないところでは、年会費の年間総収入額が少ない為に、クラブの運営費に大幅な不足を生ずることは止むを得ないことであるということです。

また、ニコニコボックス会計は、社会奉仕事業への寄付などに使うべきもので、クラブ運営の為の一般会計に流用することはできません。

何れにせよ、現状の会員数ではクラブ運営そのものに支障をきたしますので、会員増強は協力に推進しなければなりません。現実の問題として短期間に理想的な会員数にもっていくことは至難であります。

最終的には、年会費の値上げと云う手段を選ばざるを得ないと思いますが、全会員の納得を得るまで十分な討議を重ねることが、何より大切ではないかと存じます。

「一 言」

齊 藤 茂 之

有益な討論会でした。時間不足、発言者の偏りを感じました。私自身は、会費の値上げでも、経費を削減した少々惨めな例会でも我慢出来ます。少々ねあげして少々惨めを4～5年続けることぐらいかなと思っています。古いクラブも初期の段階でそうとうの苦労があったと聞いています。例えば南クラブ30数年の決算など見せてもらえば、支出、収入の推移などかなり参考になるとおもいます。欠席の方も多いので、全会員のアンケートをとり、その結果を参考にして決めるほうが良いと思います。

会員増強がひでも目標達成せねばなりません。小さいクラブにしては、組織が複雑ですので、時間の節約、意志の疏通、徹底した激論、繰り返しの削除などの見地から。増強、選考、分類の委員会を一本化したほうが、良い結果が出ると思います、他クラブの成功例もあります。

「クラブ財政について」

後 藤 信 夫

現状の財政状態を聞いた限りに於ては、当り前の事だができる事を実行に移すだけだと思う。

収入面では、会費の値上げである。もちろんどれくらいアップするかは議論の余地はあるが、又段階的な方法もあると思う。

又ニコニコへの積極的な参加、メーキャップが多いことその分ニコニコが少なくなるのでは？

支出面で今回気がついた点では、前年と比較し、会報の委員会費が予算で倍になっている。それから、会議でも出たが、来年度からは誕生日のプレゼントをやめることには賛成だ。又「ロータリーの友」の講読料は実費の会員負担にしてはどうだろうか？



「会員増強と財政」

河原勢自

過日行われた会員増強と財政をテーマとするクラブ協議は大変有意義でした。この問題は営利事業を行わずに、運営費を賄うプライベートクラブとしては、いずこも同じ共通問題かと思われます。ロータリークラブの歴史や会員資格の規定をみても、その地区を代表する優れた人達の集りである事や、高邁な理想をかかげていることからみて、ロータリーの会員も例会等の運営もしかるべき品位を具えていることは必須条件かと思われます。

営利事業を行わない目的集団であれば、その経費も所詮会員の負担であることはやむを得ないし、人数をやたら増やすべきでないことも当然でしょうから、会費の値上げが必須と云うのももっともと思われます。但し、必ず配慮すべきは現役を引退した方々の立場です。永年ロータリーに貢献し見識も豊かな人でも年月と共に事情が変わり、多額の負担は好ましくない場合が出てきます。この方々にも長くクラブに残って御指導頂くためには、当会における功績や尽力を感謝して一定年限を超えた会員の負担を減じて行くような方法を考えてはどうかと考えます。

「クラブ財政について」

入沢頼二

現在の年会費と会員数の状況でゆくと本年度中にも基本金の取崩しが行なわれ、次年度には財政の不足が現実の問題となり、クラブ運営にも支障を来すので緊急の対応が必要と思われます。会員数とクラブ財政の関係について云えば、毎年15名程度の新会員による入会金と会費収入をクラブ運営の財源として見込んでは何とか収支の均衡が保てる状況ではないかと思われます。現在、我がクラブの会費収入のうち55%は例会費と人頭分担金などの会員数に比例して発生する支出に使われ、会員数の大小に直接関係なく発生する固定費的支出である渉外費、事務局運営費、委員会活動費に残りの45%が充てられ、不足額は入会金等基本金の取崩しをもって賄なわれているわけです。我々のような会員数の少ないクラブでは1人当りの固定費的支出の負担額が大クラブに比べて相対的に高く、よって現在の年会費だけでは会の運営を賄えず、基本金の取り崩しを行ないながら何とか不足分を凌いで来たが、いよいよその基本金も底をついてきたというのが実情ではないかと思われます。都心の一流ホテルを例会場に使いながら委員会活動をしてゆくには、小さいクラブは大きいクラブより年会費を高くしなければ運営が困難であるということが云えると思います。

以上のように年会費は、本来、クラブの大小や運営方針によって異なるのはやむをえないことと思われますし、各

クラブがすべて横並びに年会費を決めるということはやや無理があると思われます。しかしながら実情はそうであっても、他クラブの平均的な年会費からかけ離れた金額の設定は外部からみると理解しにくく、又クラブの運営が放漫ではないかという印象を与え必ずしも名誉なこととも思われません。更に有能なロータリアンの門戸を狭くする結果ともなりかねませんので値上幅についても慎重な配慮が必要と思われます。いずれにしましても少人数のクラブは1人当りの負担が高くなるということは否定できない事実とされます。

以上のことからクラブ財政改善のためには会費値上げと有能なロータリアンの獲得を併せ行なってゆかねばならぬと思っております。

ロータリーは奉仕をし、かつエンジョイするところと思っておりますのでクラブ運営費を安く効率的にするために、例えば奉仕活動を止めるとか、例会場を安い会館に移すとか、ピアノの生演奏をやめてテープにするとか、必要な支出を無理に押え込むようなことだけは何としても避けてほしいと願っております。

編集後記

会員の皆様方の素直なご意見を多数頂戴致しまして誠に有難うございます。

要は皆様のコンセンサスを如何にして得るかと言うことに尽きるように思えます。

それぞれご意見はあると思いますが、この際もう一度、ロータリークラブの本来の姿を改めて見直してみる必要があるように思いました。

敢えて云わせていただければ、現在の日本のロータリークラブは、ともすれば華美に流れ形式にとらわれ上流社会の社交場という看板に塗りかえられているところもあるやにきいております（当クラブがそうであると言うことでは決してありません）。

ポール・ハリスら先達の提唱した「共に語り、共に助け合う」と言うロータリー本来の精神が遠ざかりつつあるのではないかと思う時もあります。

なにかの本で外国のクラブのメイキャップに出席された方の感想を読ませていただいたことがあります。隣組の会合にでも集ったと云う風景で、すべてがセルフ・サービス、卓話者を囲んで心ゆくまで話し合うのが慣行のようでロータリークラブの原点をみた感じがしたと書かれていました。その良否は別といたしまして、クラブ財政の問題は現状では或る程度の会費の値上げも止むを得ませんが「出づるを制する」思い切った勇気も必要かと思えます。

議論が更に深まり素晴らしい我がクラブの結論が出ますことを期待致したいと思います。（宮澤）

東京新南ロータリークラブ	会長=佐藤 定宏	副会長=川鍋 達朗	幹事=馬場 一廣	会報=大日方 真
事務所 〒107 東京都港区赤坂2-22-19	南部坂アネックス201号	TEL. 03-505-5976	FAX. 03-505-6004	
例会日 金曜日 12時30分	例会場 東京全日空ホテル	〒107 東京都港区赤坂1-12-33	TEL. 03-505-1111	